

## 基本三部作 3. トピックス

Topics (1) おかしな動物

Topics (2) 隠れた関係と意味

Topics (3) そして、もうひとつ。  
感謝と励まし

創業者の吉澤仁太郎は、以下に関して、  
何も残していません。  
従って、3章のトピックスは、私の推論、仮設ですが、  
あながち誤りとは、考えていません。

皆さんの判断に委ねます。

## Topics (1) おかしな動物

十二支の中に、  
おかしな動物

虎にしては、縞がない



十二支のもととは、穀物の12カ月  
種蒔きからは収穫まで  
全部揃って、初めて豊作

十二支は、誕生の年、自分の干支を表す  
自分の干支がないと、悲しむお客も  
いるでしょう

十二の動物が全部いるはず。

ここに、創業者が最初のなぞなぞを  
仕組んだように思います

縞のない虎は、「十二支のメンバーとしてのトラ」、「四神のメンバーとしての白虎」を兼ねていると考えることができる。

十二支のうち、いくつかの動物は、  
表面上見当たらないが、トラのように  
隠れている。

青龍のなかにタツ、

玄武のなかに巳。

では申は。 ちょっと難問。

## Topics (2) 隠れた関連と意味



## 詳細な思想を見てみましょう

十二支

四神

四霊(四瑞獣)

七福神 日本古

四神

青龍、白虎、朱雀、玄武

四霊(四瑞獣)

応龍、麒麟、鳳凰、靈亀

創業者は何も語っていませんが、しかし、  
以下のように云えると思うのです

国家、地域の安寧

子孫繁栄

商売繁盛

Topics (3) そして、もう一つ。感謝と励まし

鏝絵には、一方で創業者の、地域住民、近隣の人々への感謝、他方で顧客を含め全てのビジネスパートナーへの感謝の表現が見えるように思います

創業者は、魚沼の西福寺を再三訪問したと  
伝えられています。  
江戸末期の作とされる仁王様と仏法護持の  
大きな木彫で知られています。



仁王様と仏法護持の大きな木彫の製作は、洪水を鎮め、かわいそうな住民を慰めようということから、はじめられたと云われています。

機那サフラン酒の創業者、吉澤仁太郎にも、これと同じような気持ちがあったのではないのでしょうか。西福寺の大きな木彫を見て、はたと気づいたと思うのです。

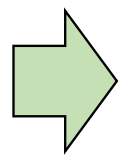
近隣住民の、当時の厳しい生活。

冷夏での不作、凶作

度重なる洪水

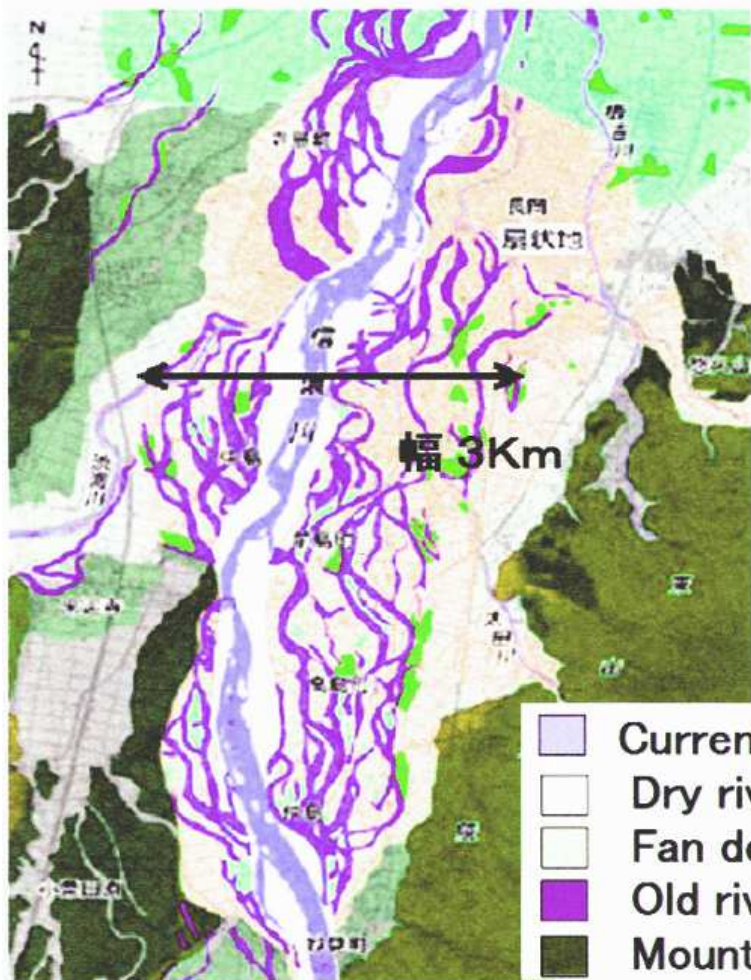
毎冬の豪雪

それらを片時でも忘れさせるような  
娯楽もない。



近隣の住民に、鰻絵で、  
励ましと元気づけをしたい。

# 厳しい生活の一端：度重なる洪水



濃い紫  
信濃川の旧河道

薄い青  
現在の河道

この幅を信濃川は  
暴れてきたということ

洪水の頻度

1596-1868の272年間に  
長岡近辺で約70回の氾濫

ほぼ4年に一度の洪水  
川筋の村は、時に洪水後、  
右岸から左岸になった。

当時は、業務の繁忙期には、近隣住民の労働力を借りて乗り切るのが普通であった。これが地方の、村の中の企業と住民の相互扶助の自然の姿。

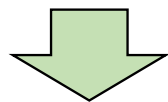
創業者も、普段から種々のつきあいのある近隣住民の普段の苦しい生活を知っているが故に、感謝の標、お礼の標として「励ましと元気づけに」、と考えたのでは、と思うのです。



見たことのないようなもの、不思議なもの、  
豪勢なもので飾り立てよう、おどろかせよう、と  
いう気持ちで、仁太郎さんにあつたに違いない。

彼らに、おどろいて、笑顔になってほしかったのです。

“感動は、心の栄養”という言葉があります



これが、ひとつの背景

時代の違い、環境の違いもありますが、  
私たちも、この鰻絵を精一杯楽しみ、  
創業者の下さった「心の栄養」を  
味わおうではありませんか。

## “感動は、心の栄養”（続）

味わい方は、鏝絵は勿論、主屋、庭園、離れにもたくさんあります。

特に、庭園と離れの様々な趣向は、謎解きの連続です。仁太郎さんの自慢する笑顔さえ浮かんでいきます。

“寺社装飾は、絵解きに価値がある”

「寺社の装飾彫刻」（日貿出版社2016）のなかの、  
佐藤秀治さんの執筆の箇所、  
「越後江戸彫り（源太郎、雲蝶）」の説明に、  
～絵解きにこそ価値がある、という言葉がありました。

『鑑賞は一言でいえば「絵解き」である。  
彫りは成形の手立てで副次的なもの。  
優れた彫技のみに気を取られずに、  
「絵解き」に参加してナンボという世界。』

サフラン酒の鰻絵も、この通りだと思います。  
私の「絵解き」的鰻絵鑑賞法、説明の姿勢は  
間違いではなかったという「お墨付き」を得た気持ちです。  
絵画でも、こういう一面がある絵も多いのでは、と思います。

## “感動は、心の栄養”（続々）

美術、宗教・思想、自然への畏敬、結界、招福と魔除け、そして茶道や和室の設えに代表される日本文化、などなど、味わい方について、これからも精一杯、ご案内させていただきたいと思います。